



令和8年度全国学力・学習状況調査の結果について

「全国学力・学習状況調査」の調査問題には、**学習指導上、特に重視される点や身に付けるべき力がメッセージとして示されています。**ぜひ、自校の結果を分析・検証し、「**チーム学校**」で**授業改善**を進めていきましょう！

今後の学習指導等に向けて（質問調査の結果から）

表現の工夫を実感させる指導と振り返りの充実

単に発表の機会を確保するだけでなく、「どのような資料を用意すれば効果的か」「どのような構成で伝えれば納得感が高まるか」といった具体的な評価基準（ルーブリックなど）をあらかじめ共有することが有効である。また、授業内に相互評価や自己評価（振り返り）の時間を明確に位置付け、「自分の考えが相手に伝わった」という実感や手応えを自覚させる指導の充実を図る。

「主体的・対話的で深い学び」を通じた自己有用感の育成

学習した知識や技能を生かして課題を解決したり、自分の考えをまとめたりする発展的な学びの活動を意図的に設定する。他者との対話や協働的な課題解決を通して自分の考えが深まる体験を重ねさせることで、学習内容の定着とともに「自分にはよいところがある」という自己有用感や学びへの自信を育む。

データに基づくRPDCAサイクルの確立と授業改善の共有

各学校においては、本調査をはじめとする各種データや児童生徒の実態を客観的に分析（R）し、学校全体の教育課程の編成（P）・実施（D）・評価（C）・改善（A）といったRPDCAサイクルを確実に組織へと還元していくことが重要である。教員間の見取りの基準を揃えるとともに、教員の成果感と児童生徒の実感とのズレを埋める授業改善アプローチを学校全体で共有・実践していく。



国立教育政策研究所「全国学力・学習状況調査」のページ

<https://www.nier.go.jp/kaiatsu/zenkokugakuryoku.html>

学習指導の改善・充実に向けての資料や動画、授業アイデア例などが掲載されています。



徳島県立総合教育センター「県学力向上関係資料」のページ

<https://siryou.tokushima-ec.ed.jp>



学力向上に向けての県内研修会の資料や動画、徳島版読解力についての資料などが掲載されています。

上記の資料や動画を活用しつつ、児童生徒の実態や学校の特色を踏まえ、学力向上に向けた取組を推進していきましょう。

